

# 安全管理マニュアル

～ 楽しく安全に活動するために ～



日本ボーイスカウト東京連盟 あすなる地区

ボーイスカウト杉並第4団

# 目 次

---

## 第1章 事故を未然に防ぐための安全対策

I 企画段階における安全対策	1
II 事前準備段階における安全対策	2
III 実施段階における安全対策	5

## 第2章 活動内容別の危険な状況と注意点

I 川・湖・海における活動中の危険な状況と注意点	7
II 山・森における活動中の危険な状況と注意点	8
III その他の活動の注意点	9

## 第3章 事故などが発生した場合の対応

I 緊急時の体制	10
II 情報収集・発信	11
III 事故の一報	11
IV 事故対応経過の記録	12
V 活動に関する保険	12

## 【様式集】

(様式-1)企画段階チェックリスト	13
(様式-2)準備段階チェックリスト	14
(様式-3)実施段階チェックリスト	15
(様式-4)緊急連絡先一覧	16
(様式-5)健康状態・配慮事項連絡票	17
(様式-6)健康管理チェック表(班・組)	18
(様式-7)緊急時体制表	19
(様式-8)事故対応記録簿	20

(各様式はコピーして利用することができます。)



# 第1章 事故を未然に防ぐための安全対策

ボーイスカウト杉並第4団では、青少年の健全育成をめざし、野外活動や奉仕活動、日常では経験することが少ない冒険的な活動など、魅力的なスカウト活動を行なっています。

活動時の安全確保については最も重要であり、各隊指導者のもと安全な活動に努めているところです。しかしながら、対策を講じても事故やケガをゼロにすることはできません。事故やケガ等が起きないように注意することはもちろんですが、安全を気にしすぎるあまり活動が萎縮し魅力のない活動になることは避けなければなりません。したがって、万一事故が発生した場合には、適切な対応が求められることは言うまでもありません。

そのため、「新・野外活動の安全Q&A」(ボーイスカウト大阪連盟発行)や、その他の安全関連資料を参考に、活動時の安全確保と適切な事故対応が行なえるよう本マニュアルを策定いたしました。

舎営やキャンプ、ハイキング、登山など冒険的な要素を含む活動などで利用するとともに、その他の活動において本書を参考にしながら、本団の活動が安全で魅力あるものとなることを目指しています。

尚、本書の発行にあたっては、初版の作成を頂きました貝塚第2団の多大なるご協力に感謝いたします。

## I 企画段階における安全対策

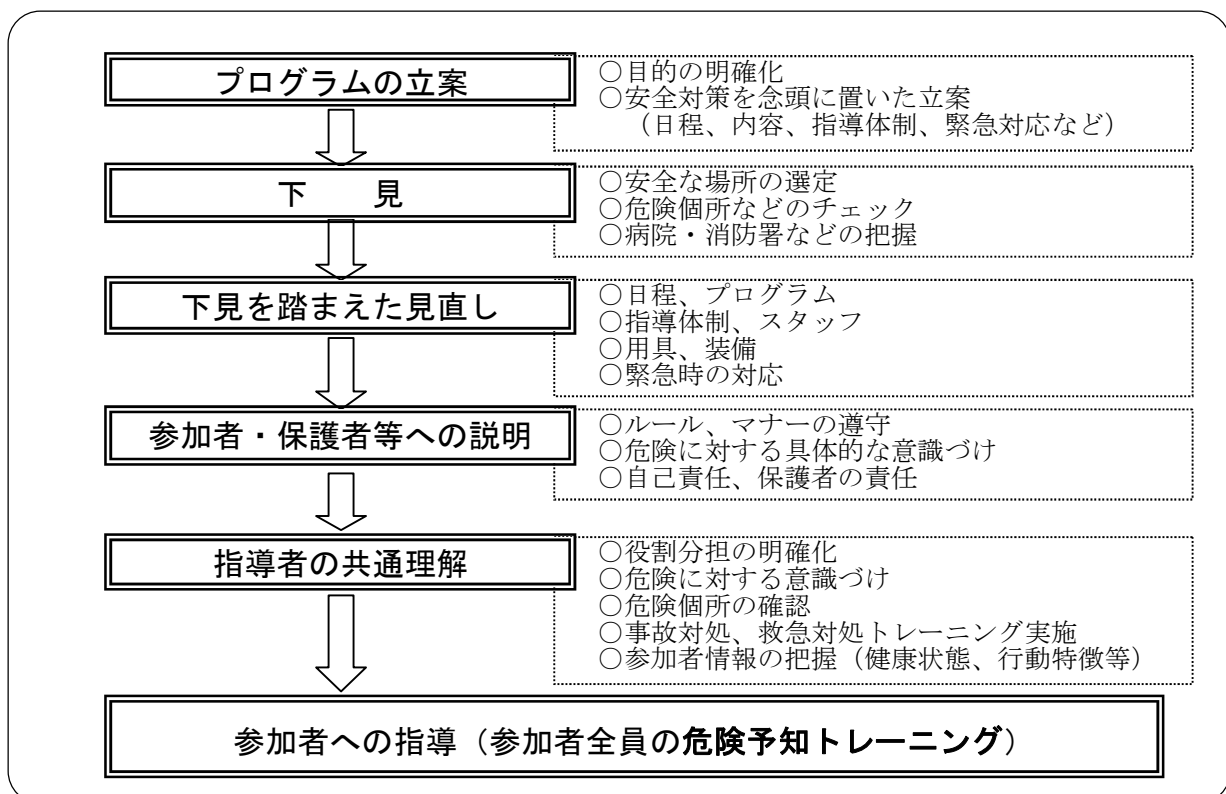
企画段階においては、活動の目的を明確化するとともに、安全に対する意識をもって、日程、プログラム内容、指導体制、用具・装備、緊急時対応などについて検討する。

天候や交通事情などによる突発的な計画変更にも対応できるよう、複数のプログラムを用意するなど、活動に無理が生じないような計画を立てる。

なお、地域交流や姉妹団であるガールスカウトと活動する際には、性別についても配慮すること。

【(様式-1)「企画段階チェックリスト」の活用】

### <事故を未然に防ぐ安全対策の流れ (企画段階)>



## Ⅱ 準備段階における安全対策 【(様式-2)「準備段階チェックリスト」の活用】

### (1) 下見(現地調査)について

事前の下見は、参加する指導者・スタッフが行い、次のような内容を確認する。また、必要に応じて活動場所や危険個所の写真、ビデオ撮影や地元の警察などの意見も聞く。また、下見により企画内容や安全対策に変更が必要な場合は、計画を見直す。

#### ① 安全な場所の選定

参加者の年齢、体力、能力などから無理のない場所か。また、活動目的に合っているか。

#### ② 危険な個所などのチェック

参加者の目線で危険個所をチェックする。併せて当日の活動範囲や監視体制、荒天時の緊急避難場所や避難ルートもあわせてチェックしておく。

#### ③ 病院など緊急連絡先の把握

周辺の病院や消防署などの連絡先、所在地などの把握し緊急連絡先一覧を作成し、そこまでの移動手段、活動場所からの所要時間等を確認する。

また、山間部の活動等、携帯電話の通話エリア外等がある場合は、どこまで移動すると通信できるか確認する。さらに、海や湖に出るときは携帯電話防水ケースを準備するなど、連絡手段を確保する。

### 【緊急連絡先一覧(例)】 【(様式-4)「緊急連絡先一覧」の活用】

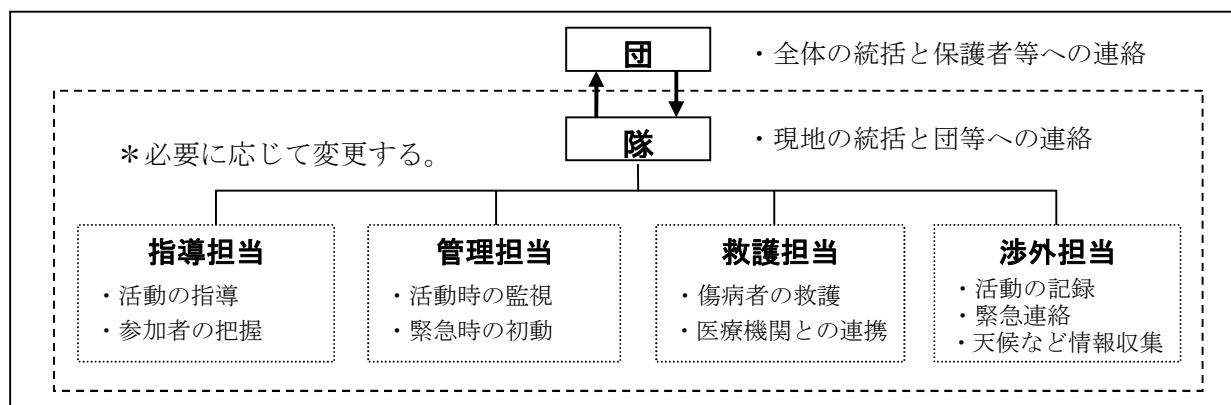
連絡先	電話番号	備考	
		所在地・窓口等	連絡担当等
消防・救急	119	〇〇消防署	
警察	110	〇〇警察署	
最寄りの医療機関	000-000-0000	〇〇医院(〇市〇町・番・号)	
団本部、団関係者	000-000-0000/090-0000-0000	団委員長…	
参加者の連絡先(自宅)	000-000-0000/090-0000-0000		
その他の機関	000-000-0000	必要と思われる機関	

### (2) 指導体制・組織について

参加者が少人数の場合でも、指導者・スタッフは2人以上を原則とし、活動の実施にあたっては、役割分担を明確にするとともに、必要に応じて警察や消防などと連携を図るよう努める。

活動時の安全管理体制として、次のような組織を置く。ただし、参加人数、指導者・スタッフの人数、活動内容に応じたものとする。

#### <安全管理体制(例)>



### **(3) 参加者及び保護者に対する説明(事前説明会・入団説明会など)**

団及び隊が、事前に参加者や保護者と面識を持つことは大変重要である。特に参加者が子どもの場合は、必要に応じて保護者に対しても説明を行う。

事前説明会(キャンプの保護者説明会など)では、活動の目的・内容・持ち物・服装・指導体制・指導責任者・保険などについて参加者および保護者に説明を行う。

#### **① 参加者への説明(安全教育)**

##### ア) ルール・マナーの遵守

法律や集団の規範・約束事、道具の取り扱いなど、安全を確保し快適に活動するためのルールやマナーを参加者が遵守するよう徹底する。

##### イ) 安全に対する意識づけ

野外(自然)環境の中で行われる活動では日常的に予想される危険とは異なる。指導者が作成した危険個所の一覧等をもとに、参加者の安全意識が高まるように指導する。

「危ないから近づくな」というだけでなく、「ここはコケが生えていて滑りやすく、転落すると下の岩場で大ケガをするかもしれない」から近寄るな。というように具体的に指導する。

##### ウ) 自己責任の意識づけ

「自分の身の安全は自分で守る」という意識をもつことは子どもであっても非常に大切である。参加者の年齢やレベルに合った意識づけを行う。

#### **② 保護者の責務**

##### ア)安全に対する指導

各家庭においても安全に十分気をつけて参加するよう言い聞かせることを依頼する。

##### イ)保護者の責任 【(様式-5)「健康状態・配慮事項連絡票」の活用】

保護者には、活動の趣旨・内容などを理解し、同意した上で子どもを参加させる責任があることを説明する。また、保護者は子どもの参加に際して、持病やアレルギーなど配慮すべき事項、当日の健康状態などを、漏れなく指導者に報告するよう説明する。

### **(4) 参加者の情報および特徴の把握**

#### **① 参加者の情報の把握**

入団申込書や健康調査書、【(様式-5)「健康状態・配慮事項連絡票」】などにより参加者の情報を事前に把握しておくことが必要である。

特に子どもの場合、持病や食事制限、アレルギーおよび常用薬などについても把握しておく。

#### **② 参加者の特徴の把握**

参加者の特徴を事前準備の段階で把握できれば危険を回避できる場合がある。

日頃の活動中においても把握に心がける。

##### ア)参加者の体力・能力

ボーイスカウト活動では、参加者の基礎的な体力や運動能力・活動技術レベルに応じた無理のない計画を立て、実施場面では、弱者にあわせて行動することが原則である。また、弱者に十分な配慮と対応が出来る準備(スタッフ、装備)をしておく。

##### イ)参加者の意識・感情

不安や悩み、緊張などが続いている場合は事故につながるなど危険があるので、活動中も把握に努める。

## (5) スタッフに対する指導

### ① 役割分担とコミュニケーションについて

役割分担を明確にし、コミュニケーションが十分とれるようにしておくこと。

### ② 危険個所の確認

下見で撮影した写真やビデオを利用するなどして指導者・スタッフが危険個所を把握する。

### ③ 事故対処訓練を実施する。

緊急事態が起きた場合、冷静に対応できるようスタッフ全員がマニュアルについて理解しておく。万一の場合に備えて事故を想定した訓練をしておく。

### ④ 危険に対する意識づけ

活動中に想定される事故等の原因には次のようなものがある。

- ・気温、日射……熱射病や日射病など
- ・動物、植物……ヘビ、ハチ、クラゲ、ウルシ、毒草・毒キノコなど
- ・気象、天候……大雨、洪水、落雷、大雪、地震、津波など
- ・地形、場所……落石、転落など
- ・水温、水深……溺れる、流される、低体温、衰弱など
- ・技術、知識不足……遭難、無理な行動など
- ・用具の操作技術……切り傷、やけど、刺し傷、爆発、一酸化炭素中毒など
- ・疲労や心的要素……判断ミス、パニック、過度の興奮など
- ・衛生管理の不足……発熱、下痢、食中毒など

このほかにも、様々な危険がある。また、複数の要素が重なるとさらに危険な状態になる。

### ⑤ 救急法・救急処置訓練の受講

指導者やスタッフ、ボーイスカウト部門以上のスカウトは、消防署や日赤などで実施する止血法、心肺蘇生法などの救急処置訓練を受けておく。

## (6) 用具・備品について

用具・装備について、参加者に適しているか、不具合がないかを点検しておく。緊急用の用具・装備、救急箱も準備する。また、使用方法についても習熟しておく。

なお、救急箱については応急処置を想定して収納薬品等に不備不足がないか確認しておく。

## (7) スタッフを含む参加者全員での危険予知トレーニングの実施

活動内容により必要がある場合は、参加者全員が、現地の写真やビデオ、イラストなどを見ながら、

- ①「危険なところはどこか。」
  - ②「どんな危険が隠れているのか。」
  - ③「どんな事故が予測されるのか。」
  - ④「どのように行動したらいいのか。」
- という観点から危険を予知し、危険を回避する能力を高める訓練を行う。



### Ⅲ 実施段階における安全対策 【実施段階チェックリスト(様式-3)の活用】

#### (1) 気象状況の把握とプログラムの取り扱いの判断

活動日以前の気象情報を把握しておくと共に、活動場所に到着したときには、最新の気象情報をラジオや携帯電話などにより確認し、プログラムの実施が妥当かどうか判断する。

天候等に応じて活動の中止や変更が必要となる場合でも、事前に雨天時用のプログラムを準備していない場合には、予定していない活動は避けることが望ましい。



#### <気象状況に応じた対応>

ア 警報や注意報が発令されていないかを確認する。

イ 大雨警報や雷注意報が出ている場合は、野外での活動は中止・延期を検討する。

ウ 大雨に対する安全対策

○ 川の増水や土砂崩れに注意が必要である。常に水位に気をつけ、雨が降ってなくても水量が増えてきた場合は、活動をやめて避難する。

○ 雨が降っているのに川の水位が下がった場合は、上流でせき止められた可能性がある。せきが決壊したとたんに土石流が襲ってくる可能性があるのですぐに避難する。

エ 雷に対する安全対策

○ 落雷の予兆

・積乱雲が成長する様子が見えたら、落雷の危険がある。

・「ゴロゴロ」と雷鳴がかすかにでも聞こえ始めたら、降雨の前に落雷の危険がある。

○ 安全な場所への避難

・コンクリートの建物、戸建住宅、自動車、洞窟の奥などが安全である。

・テントの中、ビーチパラソル、立木の下などは危険であり雨宿りは厳禁である。



#### (2) 危険個所の再確認

下見の時から変化していることもあるので、当日の様子を再度確認すること。

特に、天候などによる変化もあるので、指導者・スタッフ全員で確認する。また、参加者にも活動範囲や危険個所を具体的に示す。

必要な場合は、危険個所を表示するなどして、参加者の注意を喚起する。

なお、天候に応じて活動の中止や変更が必要となる場合もあるが、変更する場合でも全く予定せず、準備していない活動は、避けることが望ましい。

#### (3) 用具・装備の再確認

通常使う用具・装備だけでなく、緊急用の用具・装備にも不備がないか確認する。

#### (4) 指導者・スタッフの役割分担・緊急時の対応についての再確認

緊急時の対応マニュアル、連絡体制を指導者・スタッフ全員が理解し、緊急時に迅速かつ円滑に対応するために、マニュアルや緊急連絡先などを分かりやすい所に置いておく。

## (5) 参加者の状況把握

### ① 人数の確認

安全確保の基本であるので、担当の指導者・スタッフを決め随時責任をもって行うこと。

### ② 健康状態【(様式-6)「健康管理チェック表(班・組)」の活用】

活動に入る前に、参加者の健康状態(睡眠、排便、食欲など)について確認する。参加者にはいかなる体調変化もすぐに申し出るように伝えるとともに、指導者は、参加者が体調不良などを訴えた場合は、その後の活動への無理な参加は控えさせるようにし、必要に応じ保護者へも連絡する。また、このような場合、参加者は少々無理をしても、継続して参加したいと意思表示することがあるが、状態に応じ医療機関を受診させるなどの対応を行い、医師のアドバイスを参考に、活動への参加の可否を決めるようにする。

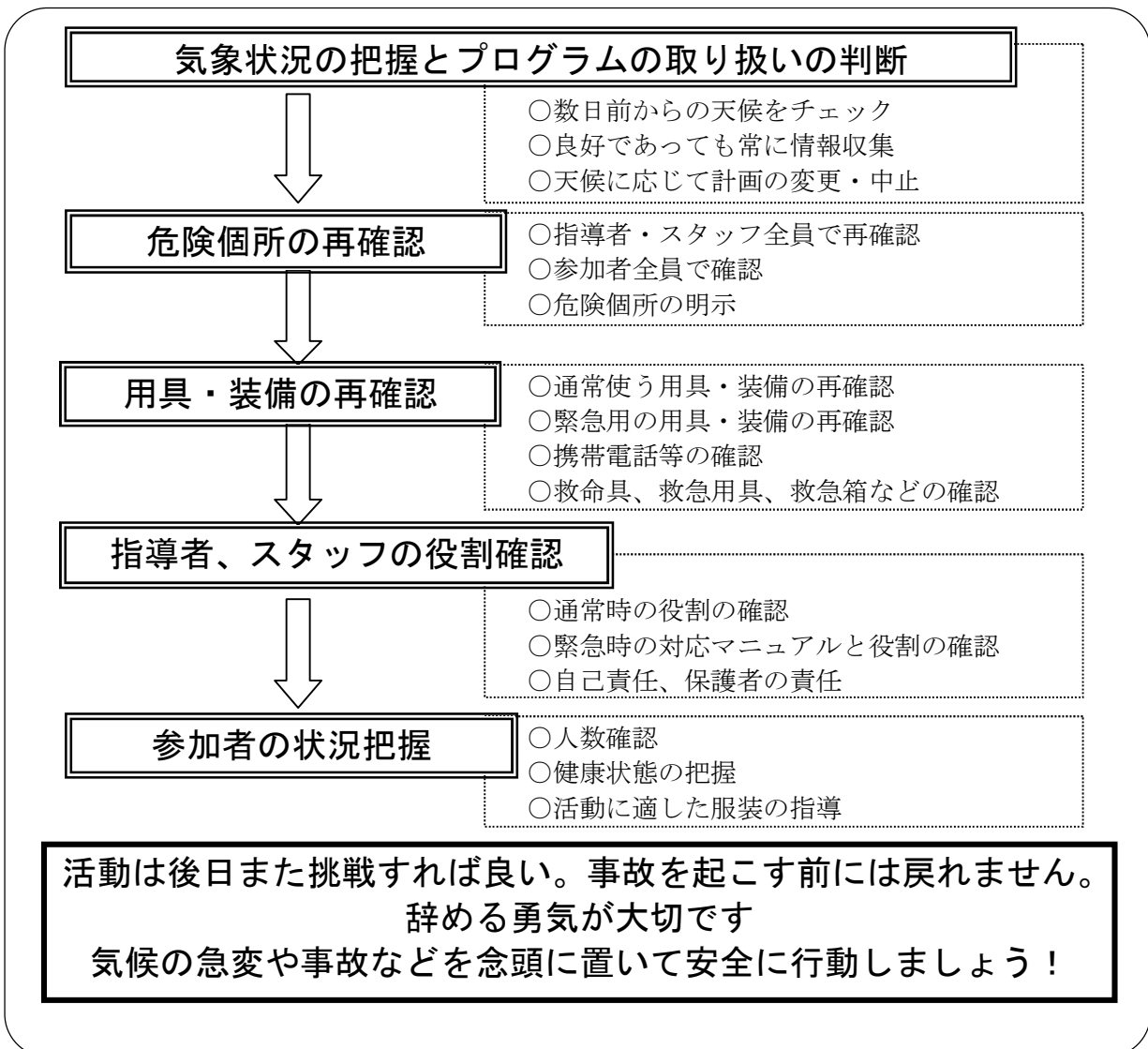
### ③ 心の状態

活動の中で心の状態が不安定になっている参加者がいないか注意し、活動を無理強いしないなど落ち着けるように配慮する。

### ④ 服装など

野外活動では事故などを未然に防ぐためにも、それぞれの活動に適した服装や装備が必要である。屋外での帽子の着用など活動に適した服装などについて指導する。

## <事故を未然に防ぐ安全対策の流れ(実施段階)>





## 第2章 活動内容別の危険な状況と注意点

安全管理は「もしも」の発想が大切です。「まさか～」の発想では、危険の予知や急な出来事に対応できません。常にそこに潜む危険を意識しておくことが大切です。

### I 川・湖・海における活動中の危険な状況と注意点

#### (1) 川・湖・海における危険な状況(例)

- 水中では陸上にいるときよりも急速に体温が奪われる。
- 川や海では、水面・水中で、様々な流れが発生している。
- 磯や岩場などは、不安定で滑りやすい。フジツボなど  
堅い生物が付着している岩も多い。
- 水中には水面から見えない岩などがある。
- 突然深みにはまったり、川の流れに引き込まれたり、沖に流されたりすることがある。
- 突然、大きな波が押し寄せることがある。
- 岩や橋脚、川の合流付近などは複雑な流れが発生する可能性がある。
- 上流にダムのある川で放流サイレンが鳴った場合、増水する危険があるので 特に注意する。



#### (2) 活動別の注意点(例)

##### ① 共通事項

ア) 川・湖・海の状況を把握する。

活動直前に、水深、水温、水質、流れ、水底の状況などについて必ず把握する。

その上で、年齢やレベルに合わせて、活動をする場所として妥当かどうかを判断する。

イ) 必要な用具・装備を準備する。

万一に備えて、活動場所のすぐそばに、誰にでもわかるように、浮き輪、ボート、

レスキューロープ、ホイッスルなど必要な物を配備する。カヌー、ボート、イカダや舟などを利用する場合は、ライフジャケットを着用する

ウ) 監視体制を整える。

水中活動における安全管理の基本は、参加者から目を離さないことである。

次の場所にそれぞれ1名以上配置することを基本に、複数による監視体制を整える。

- ①陸上から広い視野で活動場所全体を見渡しながら監視する。
- ②川辺や湖岸の近い位置から活動の様子を監視する。
- ③水中で参加者とともに活動しながら、活動場所の最下流などで監視する。

エ) 活動にあたっての注意事項

・泳いだり、水遊びをしたりする場合は、活動範囲や危険区域を参加者に知らせる。

⇒ブイを浮かべたり 岩場などにコーンを置く、その他分かりやすい目印を決める。

・水際はとても滑りやすい場所である。また体が冷えやすい。

⇒滑って流された時のことを考えて、ライフジャケットを着用することが望ましい。

⇒低体温症を防ぐためにも、こまめに陸上で休憩する。

・水辺での活動では「バディシステム」(注)をとることも有効である。

((注) バディシステム: 2人1組で行動し互いの安全を見守りながら、楽しみも分かち合うというものである。

バディシステムで、異常がいち早く発見され指導者や周囲に伝えられることで、事故を未然に防ぐことができる。)



## ② カヌー・ボート・いかだ遊び

ア)水上では不安定であり、転覆する危険性がある。

⇒ライフジャケットや靴(リバーシューズなど)を着用する。

イ)急な流れのある所などでは、頭部をケガする可能性がある。

⇒専用のヘルメットをかぶる



## ③ 水泳・水遊び・スノーケリング

ア)スノーケリングでは、ライフジャケットあるいはウェットスーツを着用する。

イ)器具を使う活動では、器具が正しく装着できているか、正しく使用できるかチェックする。

## ④ 磯遊び・潮干狩り

ア)波打ち際の活動では、突然の大きな波が来ることがある。

⇒波の様子や変化をたえず観察する。

ケガに備えて濡れてもいい靴を着用する。ビーチサンダルはケガをしやすいので避ける。

イ)熱中症の予防のため、帽子をかぶり、こまめな水分と塩分の補給をする。

ウ)ゴミや漂流物の中には、危険な廃棄物や死んでも毒を失わない生き物があるので、むやみに手を触れないようにする。また、軍手等を着用する。

## Ⅱ 山・森における活動中の危険な状況と注意点

### (1) 山・森における危険な状況(例)

○山や沢すじでは、急斜面の路肩や浮石に注意する。

○気象情報を確認し、大雨や雷の予報が出ているときは、無理せず中止する。

○活動開始後、天候が急変し落雷の危険があるときは、速やかに活動を中止する。

### (2) 活動別の注意点(例)

#### ハイキング・登山

ア) 山の状況を把握する

山の天気は変わりやすい。概して、高い山ほど様々な危険があり、準備・装備も必要になる。

イ) 必要な用具・装備を準備する

・道に迷わないために、必要に応じて地図や方位磁針(コンパス)を持参する。

・アメやチョコレート、ビスケットなどの行動食や非常食などを持参する。

・朝夕や悪天候時には真夏でも防寒具が必要となるなど、寒さに対する備えが必要になる。

ウ) 移動時の監視体制や注意事項

・指導者は先頭と最後尾、参加者中に入り、スカウトが列からはみ出さないように注意する。

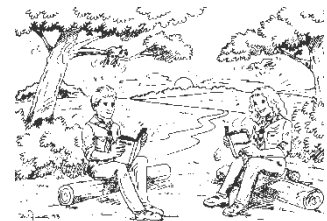
エ) 活動にあたっての注意事項

・下りはケガをしやすいので、慎重に歩き、決して走らない。また、一定の間隔で休憩時間をとること。

・山道では山側から落石があったり、谷側に滑って落ちたりする危険性がある。

・熱中症や頭のケガを防ぐため、帽子をかぶるとともに、こまめに水分と塩分を補給をする。

・サル、ハチ、毒ヘビ、ウルシなど危険な動植物に注意する。ハチに刺された場合ショックを起こし命に係わることもあるので、ハチの巣を見つけても決して近づいてはいけない。



### Ⅲ その他の活動の注意点

#### (1) テントの利用

- テントの中では火気を使用しない。引火すると大やけどなどの重大な事故につながる。
- テントの中ではガスランタンを使用しない。一酸化中毒死などの重大な事故につながる。
- 川の中洲には設営しない。上流で雨が降ると急激に増水し避難できなくなる。

#### (2) キャンプファイヤー／花火

- 水を準備して大人と一緒にこなう。
- 火を扱う者を決め、やけどをしないよう手袋をはめる。点火中は火の粉等にも十分注意する。
- 風の強い時は立ち木等への延焼の恐れがあるので実施しない。
- 会場は暗くなるので、障害物や凸凹などの安全対策をするとともに懐中電灯を準備する。
- 花火は説明書どおりに点火する。
- ファイヤーや焚き火、かまど、花火などの火気は終了後は確実に消火し確認する。

#### (3) 野外料理

- かまど等の利用では、周りに引火しやすいものがないことを確認し、水を用意すること。
- 火の当番を決め、火の周りではふざけたりしない。
- キャンプ等で食中毒をおこさないためには十分加熱することを基本とする。
- 腐りやすい食材を保管するときは低温で保管する。
- 野草料理は毒草に注意し、安全が確実でないものは食べない。特に野生キノコは専門家が同行している場合を除き、素人判断(色や形その他の素人基準)で採取し食べてはいけない。
- わき水や自然水は“飲用可”を確認できないときは飲まない。

#### (4) 刃物の利用

- ナタ等を利用するときは、回りに人がいないよう注意する。また、まきを持つ手は手袋をはめ、ナタは素手が滑り止めをし、気持ちを集中してこなう。
- 包丁や刃物の利用は、正しい使い方を実演して説明するなど、年齢に応じた指導をする。
- 使用しないときは確実に収納し、誤った使用により事故につながらないように注意する。

#### (5) スキーやスケート

- 骨折等の事故が多い。技術や能力に合った行動をし、無理な滑走をしない。
- 体に合った靴やスキー板等の用具を使用する。
- スキースクールなどの活用も検討する。

#### (6) その他の活動など

- その他の活動場所や活動内容においても可能な限り危険を予測して安全管理を行う。  
ただし、安全を気にしすぎるあまり活動が委縮しすぎることがないように  
安全管理と魅力ある活動のバランスに留意すること。

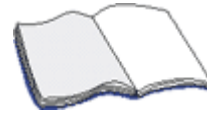


## 第3章 事故などが発生した場合の対応

適切な安全対策を行っても事故やケガの発生を完全に防ぐことは困難です。そのため、事故発生時に団責任者への報告・連絡・相談するとともに、迅速・的確に対応することが重要です。また、保護者と離れて活動していることが多いことから、保護者・スカウトともに不安が大きくなります。正確な情報を迅速・ていねいに伝えるなど心のもった対応が求められます。

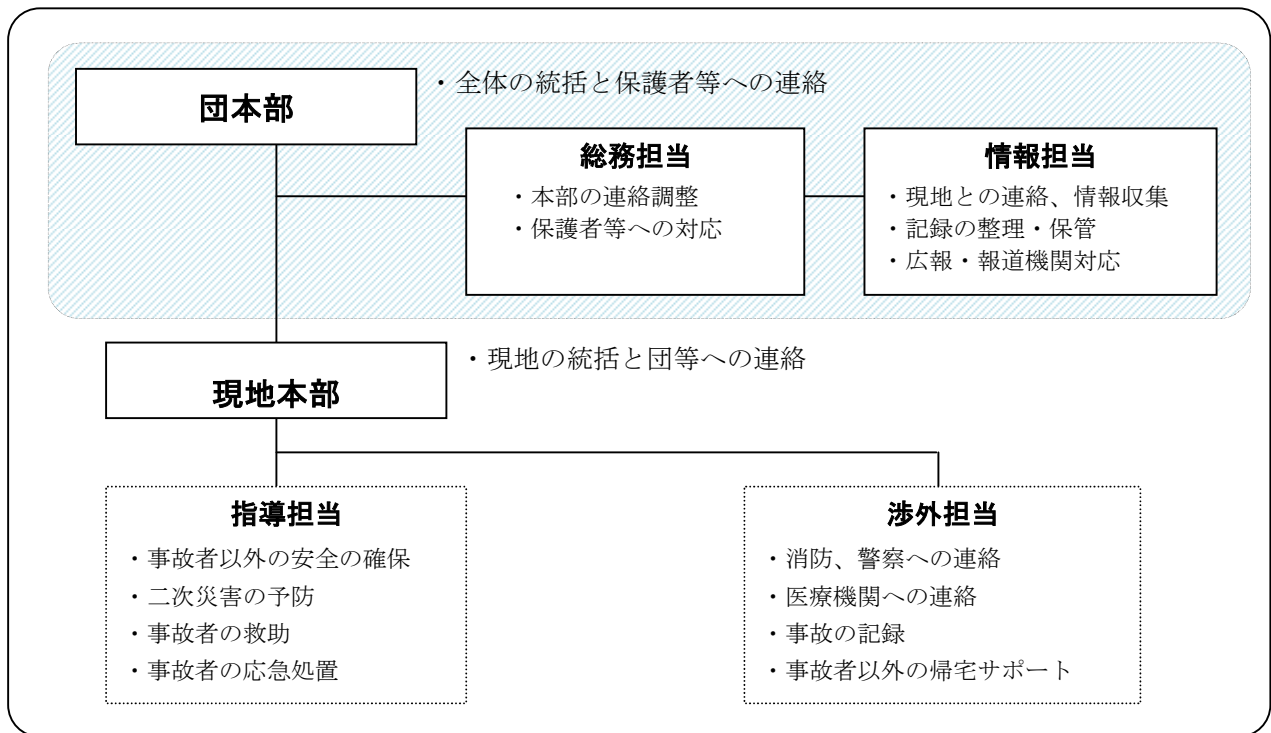
### I 緊急時の体制

#### (1) 緊急時の体制について



責任者、指導、監視、救護、渉外などの役割を決めて、緊急時に対応できる体制を作る。ただし参加者の人数や、指導者、スタッフの人数、活動内容に応じてより適正な体制をとる。

#### <緊急時体制表(例)> 【(様式-7)「緊急時体制表」の活用】



#### (2) 緊急時の対応について

事故が発生した場合、初動対応が重要である。そのため、あらかじめ決められた役割を各人が確実に実施できるようにしておく。

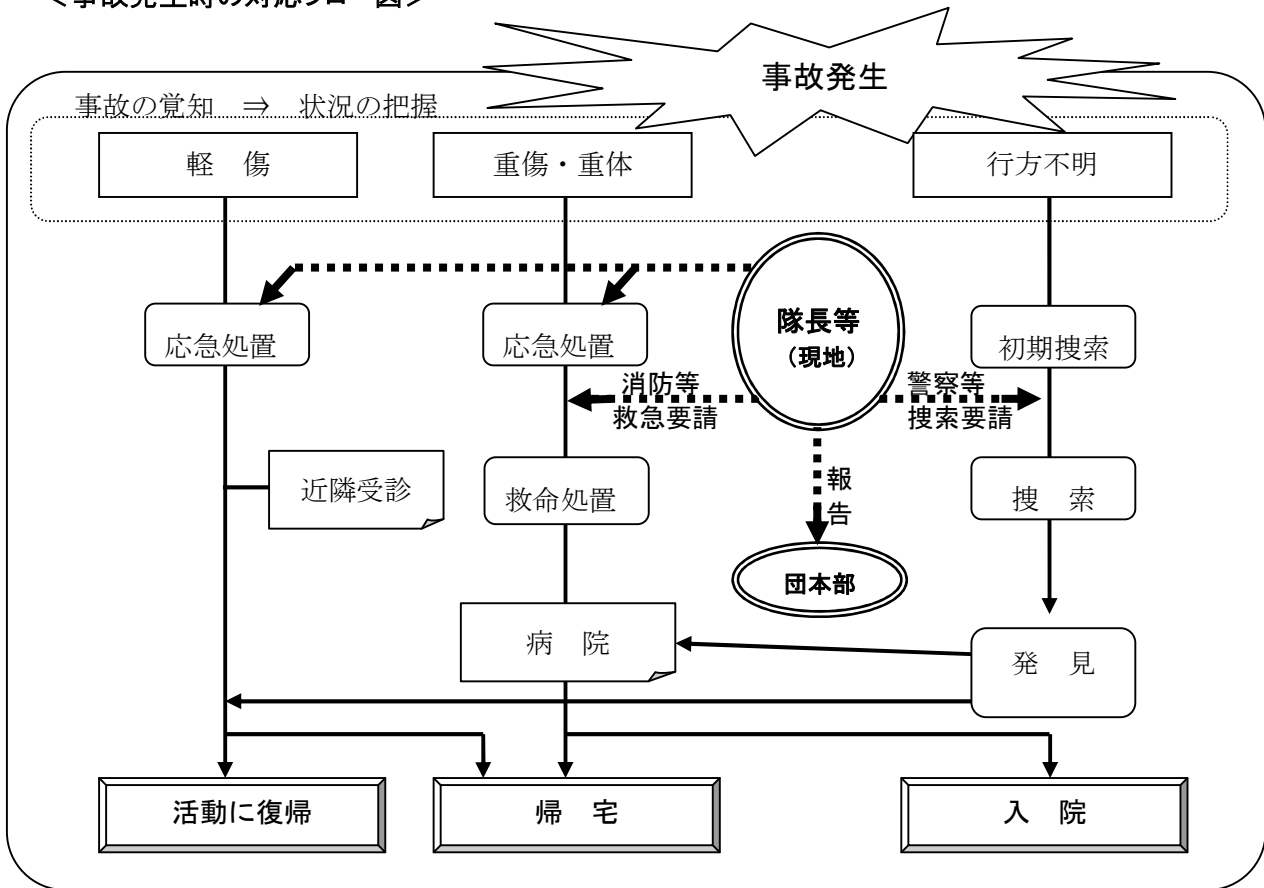
初動対応が適切に行えるよう、また二次災害を防ぐためにも、指導者・スタッフは、①冷静になる、②自分自身の安全を確保する、③事故者以外の参加者の安全を確保することを第一に考えて行動する。

上記の点を踏まえ、適切に対応するためフローチャートを作るなど、緊急時の対応を全員が理解しておく。

なお、緊急時には随時、状況を把握(記録)しながら警察や消防などの各機関と連携を図る。

次に事故発生時の対応フロー図を参考に示す。

## <事故発生時の対応フロー図>



## II 情報収集・発信

事故などが発生した時は下記の点に留意し、適切に情報収集・発信を行う。

### (1) 情報収集

事故発生の日時・場所・氏名・性別・年齢・所属・ケガの程度・処置の内容を正確に把握し、記録する。

### (2) 情報の一元化

団や隊での情報の集約・発信については担当者を決め一元化を図る。



### (3) 情報の発信

情報を発信する場合、わかっていること、わからないことを整理し、個人の解釈で、不確実な情報を発信しない。また、プライバシーに配慮し、誤解を招かないよう正確な表現に努める。

## III 事故の一報

事故の一報は、団や保護者にできるだけ速く、正確に伝えることが重要である。

以下のように、事故発生の日時、場所、氏名、ケガの程度、処置の内容などについて報告する。

- ①事故の概要を、現地から団本部へ報告する。
- ②団または隊は、保護者に報告する。
- ③団は、必要に応じて関係機関に報告する。

### 【負傷者および保護者への対応の心得】

負傷者やその保護者に対して誠意をもった対応が不可欠である。

保護者の不安を考え、速く正確に伝えるとともに、必要に応じて保護者を活動場所へ案内する。

#### Ⅳ 事故対応経過の記録 【(様式-8)「事故対応記録簿」の活用】

正確な記録は、保護者への説明等において重要な資料となる。保険会社へ提出の義務、警察、消防、救急関係者への提出も必要になるので、時間の経過に沿ってめれなく記録すること。必要ないと思う情報も記録することは無駄にはならない。

##### <事故対応記録簿(例)>

プログラム名	〇〇隊夏期キャンプ( 月 日～ 月 日)		
事故発生時	月 日 時 分頃	天気	発生場所 〇〇キャンプ場(〇〇市)
受傷者と受傷の概要	〇〇 〇〇 男 〇才		手の甲に〇cm程度のやけど(軽傷)
	〇〇 〇〇 女 〇才		足の甲に〇cm程度のやけど(軽傷)
事故の概要	誰が、何をしたとき、どのように、どこに、どの程度の受傷をしたのか。 5W1Hを参考にあとから第三者に説明できるように記載する。		
事故対応の経過			
日 時	内 容		
〇月〇日 〇時〇分	事故発生		
〇時〇分	〇〇指導者が応急処置を施し、〇〇指導者が救急を要請。		
〇時〇分	救急車が到着。意識ははっきりしている。〇〇指導者が同乗し、搬送。		
〇時〇分	〇〇病院へ到着し、〇〇の処置を受ける。		
〇時〇分	〇〇指導者が保護者、団本部へ連絡。		
〇時〇分	処置後、病院からキャンプ場へ到着。活動を継続。		

\* 保護者への説明や保険請求等で正確な情報が必要です。担当者を決め、めれなく記録してください。

#### Ⅴ 活動に係る保険

スカウトや指導者、団委員は加盟時に「ボーイスカウト日本連盟 そなえよつねに共済/賠償責任保険」に加入している。活動中の事故で保険の支給要件に該当する場合、規定の傷害補償・対物賠償補償・対人賠償補償が給付される。

給付要件である、活動計画書や参加者名簿等を適切に作成し団の承認を得た活動を実施すること。

非加盟員でも共済/保険への加入が可能であるため、活動に同伴する家族(親、兄弟姉妹等)やインストラクターがいる場合は、活動に参加する者にその旨を具体的に説明するとともに、そなえよつねに共済/賠償責任保険に加入いただく、個人で別の保険、スキーなどの行事に応じた傷害保険等への加入を検討してください。なお、団では そなえよつねに共済/賠償責任保険の給付以上の保障を行なうことはできません。

##### ■注意■

- 事前に活動計画書及び参加者名簿が備えられていない活動は“ボーイスカウト活動”と認められません。
- 事前に明確に記載された活動計画書に限ります。
- 活動計画書について書式はありませんが、少なくとも下記の項目が記載されていることが必要です。  
(・活動計画書の作成日、・活動名、・活動日時、・活動場所・活動の内容)
- 参加者名簿については、特に指定された書式はありません。計画書に参加者一覧を設けるなどでも構いません。
- 補償の対象外となる事例  
・日射病や熱射病、・食中毒、・地震や噴火またはこれらによる津波、・自動車に起因する賠償責任、・専用用具を用いた山岳登山 リュージュ スカイダイビングなどの危険な活動
- 詳しくは、「そなえよつねに共済/賠償責任保険」の手引き(日本連盟のホームページに掲載)を確認して下さい。

**I 下見(現地調査)について**

- 安全な場所を選定した
- 危険な場所などのチェックをした
- 病院・消防署などの場所・連絡先を把握した
- 適切な場所にトイレ(男女)を確保した
- 通信エリアの確認や水辺の活動では防水カバー等を準備した
- 
- 

**II 指導体制・組織について**

- 指導者・スタッフの人数は十分である
- 必要に応じて専門家の意見を聞いた
- 活動に必要な知識、技術、経験をもった指導者・スタッフがいる
- 活動内容に応じて、必要な資格をもった指導者・スタッフがいる
- 
- 

**III 緊急時の対応について**

- 緊急時体制表を作成した
- 活動場所周辺の警察、消防、医療機関等、緊急連絡先一覧を作成した
- 
- 

**IV 緊急時の用具・装備について**

- 救命具、救急用具(活動内容や活動場所に適したものなど)を用意した
- 通信用機器(トランシーバー、携帯電話、防水ケースなど)を用意した
- 非常用食糧を用意した
- 救急箱(応急処置用の薬などの不足をチェック)を用意した
- 
- 

**V 計画全般について**

- 日程・プログラムは参加者(男女)に無理のない計画になっている
- 性別(男女)に配慮した活動内容・計画(テント、更衣、トイレ等)になっている
- 天候や交通情報などに対応できるよう、代替のプログラムを用意している
- 活動に必要な用具・装備の点検をした
- 移動手段に無理はない
- 保険に加入した
- 
- 

\* 必要に応じて項目の追加・削除するなど、各活動内容に合った内容として活用してください。

**I 指導者・スタッフに対して**

- 役割分担は明確にできている
- 危険に対する学習をした
- スタッフ全員による危険個所の確認をした
- 事故対処トレーニングを実施した
- 救急法・救急トレーニングを受講した
- 
- 

**II 参加者に対する説明について**

- 各自の詳細な行動計画を説明した
- ルール・マナーの遵守について説明した
- 指導者の指示に従うこと、許可を得てから行動することを説明した
- どの何がどのように危険なのか具体的に説明した
- 自己責任に対する説明をした
- 
- 

**III 保護者への説明について**

- 危険に対する説明をした
- 保護者の責任について説明をした
- 保険に関する説明をした
- 
- 

**IV 参加者の情報の把握について**

- 緊急時の連絡先は把握できている
- 持病、アレルギー、食事制限などについて把握できている
- 
- 

**V 参加者の特徴の把握について**

- 体力・能力について把握している
- 行動・態度について把握している
- 意識・感情について把握している
- 
- 

**VI 危険予知トレーニングについて**

- スタッフを含む参加者全員での危険予知トレーニングを実施した
- 

\* 必要に応じて項目の追加・削除するなど、各活動内容に合った内容として活用してください。



## 実施段階チェックリスト 《確認者・日 ( / )》

## I 実施直前の確認について

- 気象状況について把握している
- プログラムおよび活動内容の再確認を行った
- 活動場所および危険個所な再確認を行った
- 活動に必要な用具・装備を再点検した
- 指導者・スタッフの役割分担を再確認した
- 性別(男女)による配慮(テント、更衣、トイレ、入浴等)が可能である
- 

## II 緊急時の対応について

- 緊急時の体制、役割を再確認した
- 緊急連絡先一覧を再確認した
- 
- 

## III 緊急時の用具・装備について

- 救命具、救急用具を確認した
- 携帯電話などの通信用機器、防水ケース等を確認した
- 非常用食糧を確認した
- 
- 

## IV 参加者の把握について

- 服装などに対して指導した
- プログラム開始時に人数を確認した
- 移動時の休憩後に人数を確認した
- 到着時に人数を確認した
- 活動開始時に人数を確認した
- 活動終了時に人数を確認した
- 健康状態をチェックした
- 心の状態をチェックした
- 
- 

## V 指導者・スタッフについて

- 安全についてチェックした
- 健康についてチェックした
- 

## VI プログラムの継続について

- 総合的に判断してプログラムは継続できる
- 

\* 必要に応じて項目の追加・削除するなど、各活動内容に合った内容として活用してください。



隊

## 緊急連絡先一覧

《作成日： / 》

連絡先	電話番号	備考	
		所在地、窓口等	連絡担当等
1	消防・救急	119	
2	警察	110	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

- \* 緊急時に連絡が必要な機関、団関係者、参加者家族など必要な連絡先を確認し作成しておく。
- \* 緊急時、誰がどこに連絡するのか、基本となる担当者を決めておく。
- \* 他の様式に連絡先が記載されている場合は、転記ミスを避けるため重複記載の省略も可。

隊

## 健康状態・配慮事項連絡票

ボーイスカウト杉並第4団

隊 隊長様

《 月 日( )に提出してください。》

記入者(保護者)

■ ( 月 日～ 月 日)の参加にあたり、健康状態・配慮事項を連絡します。

■参加にあたり、家庭においても安全に十分注意すること、ルールやマナーを守ることを指導します。

氏 名		
持病・常用薬	・ なし { (具体的な配慮) ・ あり {	
アレルギー	<食物> ・なし ・あり((具体的な配慮) ) <薬、他> ・なし ・あり((具体的な配慮) )	
食事制限	・ なし { (具体的な配慮) ・ あり {	
その他 配慮すべき内容	{ (具体的な配慮) ・ なし ・ あり (ハチに刺されたことがあれば記入してください。2回目はショックを起こすことがあります。)	
参加当日の 健康状態	・ 健康 { ・ その他 {	
緊急連絡先	(氏名: ) 携帯: /他:	(氏名: ) 携帯: /他:

&lt;以下は隊使用欄(記入しないでください)&gt;

当日の状況	
備考 (活動中の状況等)	

## 健康管理チェック表 (班・組)

ボーイスカウト杉並第4団

隊

日付	状 態	(班・組)		(班・組)	
		備 考		備 考	
/	顔色が良い				
	いきいきとしている				
	楽しそうだ				
	不安そうな者はいない				
	不機嫌な者はいない				
	孤立している者はいない				
	寝不足になっていない				
	食欲は十分				
	ケガや虫刺され				
	下痢、発熱、体調				
	気付いたこと				
/	顔色が良い				
	いきいきとしている				
	楽しそうだ				
	不安そうな者はいない				
	不機嫌な者はいない				
	孤立している者はいない				
	寝不足になっていない				
	食欲は十分				
	ケガや虫刺され				
	下痢、発熱、体調				
	気付いたこと				
/	顔色が良い				
	いきいきとしている				
	楽しそうだ				
	不安そうな者はいない				
	不機嫌な者はいない				
	孤立している者はいない				
	寝不足になっていない				
	食欲は十分				
	ケガや虫刺され				
	下痢、発熱、体調				
	気付いたこと				

「○」印等でチェックしてください。

(様式-7)

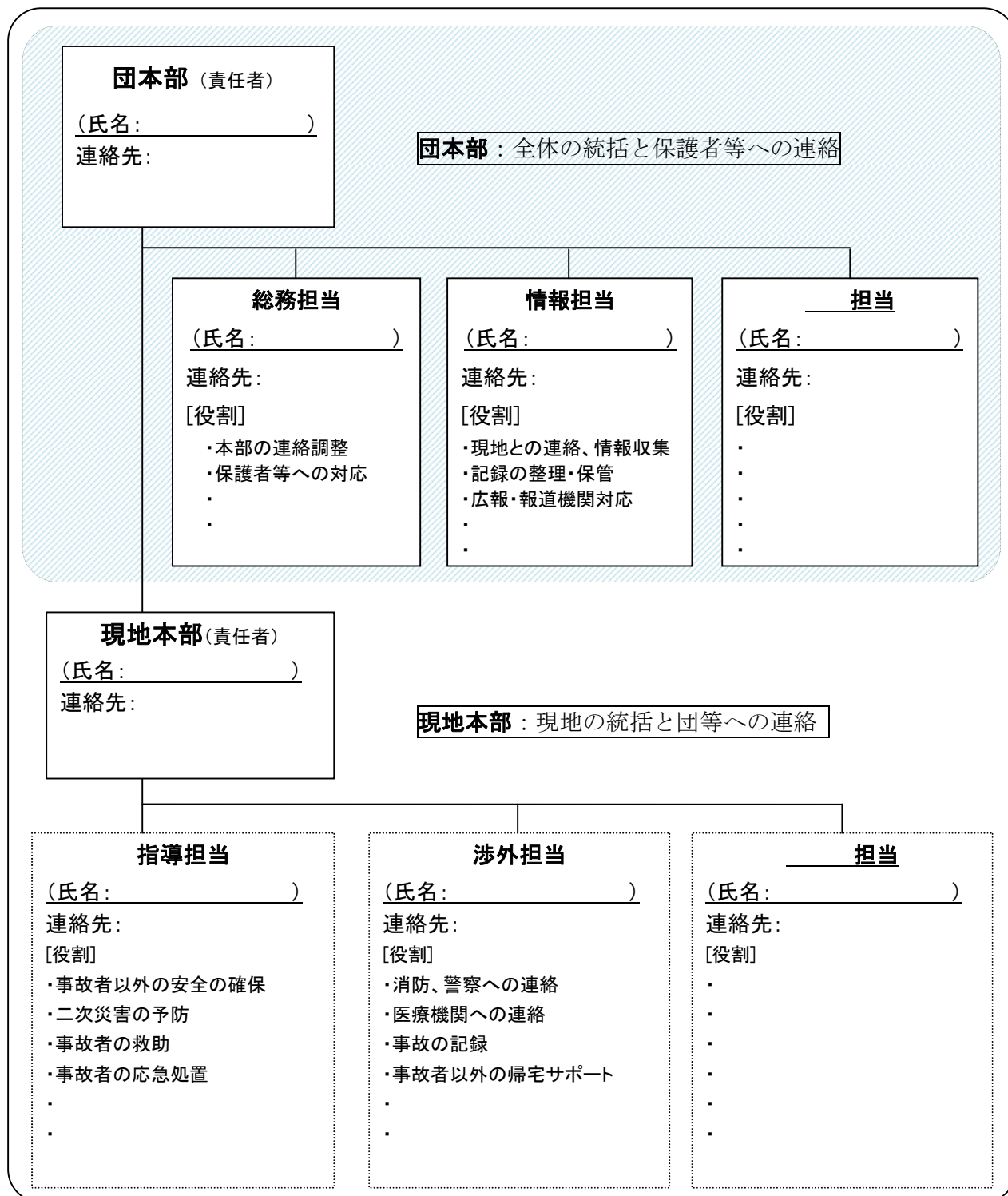
ボーイスカウト杉並第4団

隊

プログラム名

( 月 日 ~ 月 日 )

緊急時体制表



\* 必要に応じて、本表を活用し緊急時の体制を整理してください。

\* 緊急連絡先一覧(様式-4)と重複する場合がありますので必要に応じて修正してください。

(様式-8)

ボーイスカウト杉並第4団 \_\_\_\_\_ 隊

### 事故対応記録簿

《記入者: \_\_\_\_\_》

プログラム名		( 月 日 ~ 月 日 )	
事故発生時	月 日 時 分頃(天気 )	発生場所	( )
受 傷 者 と 受 傷 の 概 要	男・女 才	( )	
	男・女 才	( )	
	男・女 才	( )	
事故の概要	(5W1Hを念頭に記載してください。また、事故発生時の略図や負傷者の位置関係等を余白や裏面に図示したり、現場写真・記録写真を撮っておくなど、後のためできるだけ記録する。)		
事故対応の経過			
日 時	内 容		

\* 保護者への説明や保険請求等で正確な情報が必要です。担当者を決め、もれなく記録してください。



MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.





---

## 安全管理マニュアル

---

平成 24 年 1 月初版 (kaiduka2 Original Version)  
平成 27 年 5 月改定 (suginami4 Version)  
平成 28 年 9 月修正 (suginami4 Ver.1 Rev.7)

日本ボーイスカウト東京連盟 あすなる地区  
ボーイスカウト杉並第4団  
〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 4-18-13 カトリック荻窪教会内  
F A X 03-6893-3873  
e-mail : scout.suginami4@gmail.com  
杉並第4団 HP <http://suginami4scout.jimdo.com/>

---